

平成22 (2010) 年度 卒業研究要旨

11070001 飯田新太郎

「ライトノベルと一般小説の境界—作家・桜庭一樹に焦点を当てて—」

2007年に直木三十五賞を受賞した作家・桜庭一樹は、今でこそ一般小説を中心に活動しているが、元々は若者向けティーンノベルであるライトノベルというジャンル出身であった。本研究では、そのように作家がライトノベルから一般小説へと転向したという事実に焦点を当て、小説におけるジャンルの必要性、ジャンルというものが存在する意義などを考える。その結果、今後小説界がどのように変わっていくかということについて予測する。

111070002 井合 美香

「インテリアの始まりと展開」

私たちの生活の基本である衣・食・住の「住」を担うインテリア。このインテリアの始まりは古代エジプトの時代まで遡ることができる。古代エジプトの時代から現代までのインテリアの歴史と共に、地理や環境、宗教がインテリアに与えた影響について日本と欧州を比較し考察した。また私たちの生活で身近な家具を販売しているインテリア業界について、製造販売業の代表であるIKEAとニトリの2社に注目し、比較した。

11070003 石井 里佳

「人の名前の変遷と由来」

子どもの名前を付けるとき、親は何を考えて名前を付けるのか。人名に使用できる漢字が増え、漢字の読み方によって数多くの名前の種類があるため、漢字の意味合いや画数でつける方もいれば、憧れの人物からつけたりする方もいる。また、いつの時代から子供の名前に色々な思いを込めて名前をつけるようになったのか。これら日本人の名前のつけられ方の変遷を時代、法律、国などのさまざまな観点から調べた。

11070005 市川 理奈

「学習者の誤用から考える指導案」

私は、日本語教師を将来の職業として希望している。日本語教師は日本語文法を熟知していることが必須であり、それに加えて、学習者がどのような誤用をし、それを踏まえて学習者に分かりやすいようにどう指導するのが肝要である。本研究は、日本語の教科書『みんなの日本語』をもとに学習者が犯しやすい誤用・教師が知っておかなくてはならない文法知識・それを踏まえた指導

イントを課ごとにまとめたものである。

11070006 上原 綾香

「忠臣蔵―事件の真相と日本人の美学―」

忠臣蔵は、元禄14年、浅野内匠頭が突然吉良上野介に斬りつけ、それにより浅野は切腹、赤穂藩は改易となるが、それを不服とした赤穂浪士47人が仇討ちをするという史実である。本研究では、虚実の入り交じるこの事件の真相を解明するとともに、数多くのフィクションや脚色を通して、日本人はどんな物語を好むのかを調査した。

先行文献を比較・研究した結果、日本人は仇を討つ話や、悪者を成敗する話を好む傾向があることが分かった。

11070007 宇田川小百合

「新聞記事とブログ記事における『かわいい』の使い方」

「かわいい」という言葉が頻繁に使用されていることは先行研究で明らかである。しかし、それは辞書通りの意味で使われているのかを調査したものは管見の限り見当たらない。そこで本研究は、新聞とブログで使用される「かわいい」と辞書の意味との違いを探るため100例ずつ提示し、辞書の意味分類に沿って分類・比較した。その結果、ブログではネガティブなイメージも含まれた意味での使用が見られることがわかった。

11070008 内田 香織

「邦楽の『色』 洋楽の『色』」

邦楽の歌詞と洋楽の歌詞それぞれに出てくる色の名称（赤や白など）を、色別や使われ方で分け、双方に違いがあるのかを研究した。その結果、どちらも青が最も多く使用されており、特に「空」との組み合わせで使われていることが分かった。また、邦楽には比喩表現や独創的な色が多彩にあり、色による情景描写も多くあったのに対し、洋楽は邦楽ほど多くの用例はなかったものの、「gold」の用例は邦楽よりも多く見られた。

11070009 打田 静香

「現代日本の若者ことばの研究―戦後から現在までの若者ことばの比較―」

若者ことばとは、10代後半から30代前後の男女が使用する特有の語や言い回しである。この若者ことばとは、どのようにして出来ているのだろうか。また言語の変化には時代背景が大きく関わっているとされているが、戦後から現在までの若者ことばに焦点を当て、各年代の特徴や時代背景、共通点・相違点を比較し、これからの若者ことばはどのように変化していくのかを検証していきたいと考える。

11070010 大崎 裕司**「テニス・庭球の語源と歴史」**

一般的に「テニス」という表記は、英語からの借用語であり、日本語では、「庭球」という翻訳がなされている。「野球」や「蹴球」もそれと同様に扱うべき語彙であるが、ここでは、「庭球」の語彙を中心に、その言葉の変遷を社会言語学的な解釈のもとで扱うこととした。本論文では、語源及びその歴史的な背景と社会的な背景からの解釈をもとに探求し、その語源を考察した。

11070011 赤沼 麻美**「日本語と韓国語の共通点・相違点」**

今日、日常生活の中でテレビ及び音楽、食事などさまざまな場面で「韓国」に触れることができる。筆者は韓国語が理解できないが、会話の中から聞き取れる語彙があったり、意味がわかったりすることがあった。

本論文では、日本語と韓国語の共通点及び相違点をテーマに研究し、歴史的な背景から同じ言葉や敬語を使用することなど、さまざまな共通点及び相違点を探求し、それぞれの比較をし、考察したものである。

11070013 郭 争志**「初級を教える注意点—中国人学習者に対する注意すべき問題点—」**

近年、中国人の日本語学習者が増え続けている。それとともに、様々な問題も出てきている。学習者の多くは初級段階にいる。本論文は、初級日本語教育を取り上げ、①中国の日本語教育の現状及び学習者の数とレベルの関係、②日本語を学習する過程での中国語の影響、③初級日本語教育の中での日本語と日本文化の関係、の三つの問題を検討した。中国人学習者の普遍的な問題を整理し、教育方法を研究することは今後の課題である。

11070014 風間 早苗**「命名する時の字の選び方」**

以前から人の名前のつけ方に興味をもち、本研究ではどのように名前の漢字が選定され、決められていくのかを調査考察した。なかやまうんすい氏の著書である『こんな漢字を名前に使ってはいけない』を参考に、文献に載っている多くの漢字の中で人名によく使われていそうな漢字を選び、そしていくつかの漢和辞書を用いて、漢字そのものの意味を調べてまとめたものである。

11070015 上村健太郎**「新語・流行語大賞受賞語の使用実態—公的場面と私的場面での実態を中心に—」**

毎年12月に発表され、ニュースでも報じられる「新語・流行語大賞」。しかし、受賞語の使用実態の調査は行われていないうえ、「流行語」の定義も確固たるものが存在しない。「新語・流行語大

賞の受賞語は実際に流行しているのか」という疑問をもとに、新聞という公的場面とブログという私的場面での受賞語の使用実態を調査した。また使用実態をもとに、流行語の定義付けと、単なる語の多用との区別を試みた。

11070016 上村 哲也

「音楽のジャンル『Rock』の派生と定義」

普段から身近なものであり、気にせずに聴いているのが音楽である。音楽とは、そもそもなにをもって音楽というのか。そして、音楽には様々なジャンルが存在するがどのようにして生まれ、派生していったのだろうか。

このような点に興味を持ち、本研究では、ジャンルの一つで特に興味のある「Rock」はいつどのように生まれ、また「Punk Rock」といったような新たなジャンルがどのように派生していったのかを調べた。

11070017 亀谷 知佐

「男らしさ・女らしさ—草食？ 肉食？ 現代における日本人—」

「男（女）らしさ」について先行研究でその意味が様々な観点から議論されてきた。しかし、現代の「男（女）らしさ」について、男女を対象にした調査は管見の限り見当たらない。そこで本研究ではその実態を探るためアンケートを実施し、現代の「男（女）らしさ」について分析した。その結果「草食・肉食」という新たな「～らしさ」の存在が分かり、現代人が考える「男（女）らしさ」は変容していることが示唆された。

11070018 邱 瑜

「学習環境デザインと教師の役割について」

日本語学習者の学習環境と日本語教師の役割について研究する。本稿では、はじめに学習者は苦勞する割に成績が上がらない原因を簡単に述べ、続いてその原因、あるいは学習環境を物理的な環境と精神的な環境に分けて分析し、デザインする。さらに、学習環境をデザインする過程での、日本語教師の役割について考察する。この研究成果を自分の日本語教師としての活動にも十分に活かせると期待している。

11070019 金 翼峰

「日中外来語についての比較」

日本と中国では外来語がたくさん使われている。しかし、両国の文化や習慣などの違いによって、外来語の使用状況は異なっている。

本研究では、日中両国の外来語を通して、外来語が生まれる理由や、発展のようすを分析して、日中文化の違いと今後の外来語がどのように発展していくのかを予想しつつ、なぜ外来語が増える

のか、どのように分類されているのかといった点から日中外来語の比較を試みた。

11070020 國方 雄太

「『野球』の語源について」

今では当たり前のように使用されている「野球」という言葉は、訳した人物や使われ始めた年代によって、その訳し方は異なっている。また、昔と今では野球のルールや使用していた用語も異なっていた。さらには、戦時中の野球においては英語の使用が禁止され、その間は日本語におきかえられていた。

そこで、「ベースボール」の本当のルーツはどこにあったのかを探求し、その変遷を通時的に考察した。

11070021 國光花利奈

「日本語の乱れについて」

近年、日本語の乱れが注目されている。その日本語の乱れにはさまざまな種類があるが、その乱れとされているものは、改善されることなく、むしろ進化し続けているのが現状である。言葉は時代と共に変化し、形を変えていく。乱れとは、言葉が悪い方向に向かっているわけではなく、単にことばが変化しているということである。とくに本論考では、つねに変化している言葉について調査をした。

11070022 高 恩偵

「日本語と韓国語の対照研究」

日本語と韓国語はよく似ている言語だと言われる。語順がSOVで、文末に述語がくること、また、同じ膠着語であり漢字が用いられることなど共通点は少なくない。しかし当然のことながら異なる点もある。私は対照研究の観点から、韓国語を母語とする利点を生かし、大学の4年間で得られた日本語教育の知識を基に、日本語を基準として韓国語との共通点や相違点を比べ、日本語の特徴を見出していった。

11070023 高 雨

「日本語の敬語」

日本語で上下関係が言葉に表れる最たるものは「敬語」である。兄弟間や親子間など家族の中で敬語を使うことは今では少なくなってきたが、敬語なしに言語生活を送ることはできない。私達が社会生活を送る時、立場や年齢が自分と同じで、かつ親しい者とだけしか話さないという状況はほとんど考えられない。

そこで、まず、敬語の定義と種類を明確にし、さらに、どのような場面、どんな人に対して、どんな敬語を使うかについて研究した。

11070024 高 雪

「日本の冠婚葬祭のマナー」

冠婚葬祭とは、元服、婚礼、葬祭、祖先の祭礼という日本古来の四つの儀式のことを指す。私たちの生活の中で必要な「冠婚葬祭のマナー」とは、結婚や出産、子供の成長のお祝い・お返しの際の熨斗の書き方のマナーや金額の相場と目安、挨拶状や礼状の書き方、お通夜や葬式、葬儀の際の香典袋の書き方などである。社会人に必要なマナーと基礎知識として冠婚葬祭に関する作法や常識を今回のテーマとして研究を行っていった。

11070025 河野 純也

「FFXの世界観について」

FFXの世界では本当には存在しない世界が作られている。それを作り出すうえでの考えはストーリーやキャラクターなどで表現されているのである。シリーズを通して変わらないものや名前のみ受け継いでいるものがあり、それらには意図した関連性があると言えるのである。出てくる物やキャラクターなどの名前は実在する記録などからつけられることがあるため、本研究では、名前の由来について調べることで新たな発見をすることができた。

11070027 呉 梓揚

「嘉納治五郎の日本語教育—その日本語教育における貢献に関する歴史的考察—」

嘉納治五郎は講道館柔道の創始者であり柔道・スポーツ・教育分野の発展や日本のオリンピック初参加に尽力する等、日本におけるスポーツの道を開いた。「柔道の父」と称され、また「日本の体育の父」とも呼ばれる。同時に、嘉納治五郎は清国人留学生のための日本語教育機関として、宏文学院を設立し日本語教育にも貢献した。本研究は、嘉納による日本語教育への貢献に関して、主に歴史的な観点から考察を試みるものである。

11070028 後藤 翠

「第3次韓流ブームの検証」

韓流ブームの起源や背景は先行研究で明らかである。しかしながら、メディアの取り上げる頻度の増減は明らかになっていない。そこで現在第3次韓流ブームが起きているのかを分析するため、韓国・韓流をキーワードに用いて新聞記事での登場頻度と、韓国への日本人旅行者数の推移を調査した。その結果、第3次ブームという程大きな流行は起きておらず、ドラマからK-POPに人気が行進してきているという結果が示唆された。

11070029 齊藤 愛佳

「日本と韓国における敬語表現について」

日本語と韓国・朝鮮語は類似する点が多く敬語表現も発展している。しかしながら、相対敬語、

絶対敬語という相違点が見られるのも事実である。そこで両国の敬語表現について考察した。韓国・朝鮮語では上下関係を反映した用法がまだ根強く残っており、日本語では親疎関係を反映した用法が優先的であるように思われる。日本にもかつて絶対敬語が存在した事や、韓国・朝鮮語に相對敬語がないわけではないことも明らかになった。

11070030 坂井 理恵

「シャベルとスコップ—地域による使い方の違い—」

2009年に放送された『秘密のケンミンSHOW』という番組内で、関東では、幼稚園児が砂場で使う小さいサイズの道具をシャベル、雪かきに使う大きいサイズの道具をスコップと言い、関西ではその逆だと言っていた。本当にそうなのか、また他の地域ではどうなのかを様々な視点から調べてみると、関東・関西以外では、はっきりとした違いは見られなかったが、関東と関西では確かに逆であるという結果が得られた。

11070032 佐藤 明子

「言葉に見る東西文化差—東京言葉と京都言葉—」

東西で言葉の意識の違いがある。関東ではお互いの都府県に対抗心などはないが、関西同士では互いに意識がある。また、コミュニケーションという点から関西と関東を考えたとき、互いの言葉で不快に感じることもある。今後互いに気持ち良く接していくために、一種の異文化理解の課題と同じようにとらえ、どうすれば印象の壁を越えられるかを考える。本稿では、発展の背景や文化的土壌の違いを踏まえ、言葉から東西を見る。

11070034 佐野 典子

「歌詞から見る浜崎あゆみ」

浜崎あゆみの人気は衰えない。なぜこんなにも浜崎あゆみが支持されているのか、その真相に迫るのが目的である。しかし、「昔の方が良かった」との声もある。その背景には何かしらの変化があったと考える。そこで、浜崎あゆみ自身の言葉を通して彼女の考え方の理解を深めることと、1988年～2010年11月までに発売されたアルバムの曲の歌詞に使われている語彙を中心に調べ、その変化を見い出した。

11070035 塩室 貴大

「警察の隠語について」

警察隠語と言うと、アリバイやシロなどよく知られている言葉がたくさんある。しかし、調べてみると警察隠語全体で200～300語もあり、普段聞かれない言葉の方が多いはずだ。また、隠語というのはもともと警察関係者にしか分からないように作られた言葉だが、現在ではテレビのドラマや漫画などで使われていて隠語としての役割を成していないのではないのだろうか。そこで、今の隠

語はどんな役割をしているのかについて考えた。

11070036 周 小靖

「中国における日本語敬語教育」

日本語には精密な敬語体系がある。ところが、日本語を学ぶ外国人学習者にとって、敬語はなかなかうまく身につけられない難題である。日本語において、敬語が一番難しいと考える外国人学習者は少なくない。私も中国人の学習者として例外ではない。今でも敬語の使い方が完璧だとは言えない。本論文は、教科書から見える敬語教育と中国人学習者の問題点について、中国で今行われている日本語敬語教育を調査分析していきたい。

11070037 白川 智章

「察しを用いたコミュニケーション—察しと高コンテキストの関連性について—」

これまでは「察し」と「高コンテキスト」には深い関わりがあると、一般的には考えられてきた。本研究の目的は、「察し」は「高コンテキスト」であることによって可能となるのか調べることにあ

る。共有知識や了解事項を多くもった人との会話と、それらをもたない人との会話のやり方について、日本人学生と留学生に対してアンケート調査を行い、比較・分析し、「察し」と「高コンテキスト」には、どのような関連性があるのかを論じた。

11070038 鈴木 綾乃

「若者ことばはどのように広まるのか」

いつの時代も存在する「若者ことば」。私たちは日ごろ耳にし、あるいは使用しているが、そんな「若者ことば」はいつごろから使われ始め（若者ことばの歴史）、どのようにして生まれ、またどのように広まっていくのかということについて研究を進めた。また、現在、若者たちに使われている「若者ことば」と、昔流行した「若者ことば」の意味・用法を調べることで、共通した点がないか比較して考えた。

11070039 鈴木 慎也

「挨拶の歴史—文学作品からみる挨拶言葉の変遷—」

挨拶は私たちがコミュニケーションをとるためになくてはならないものであり、現在では様々な形式の挨拶が用いられている。しかし、そもそも挨拶とはいつ生まれたものなのだろうか。今回の研究では、挨拶の語源から、実際にどのような挨拶を交わしていたのかについて、「おはよう」「こんにちは」「こんばんは」あるいはそれに類似するものに語彙を絞って調査し、過去と現在の挨拶の違いについて研究する。

11070043 滝本麻衣子**「日本人の名字，その由来」**

日本人の文化として、「苗字（名字）」をとらえ，考察を行う。苗字，氏，それ自体が出来る過程，ルーツの4つを紹介する。その後，その苗字という言葉について，その語源，始まり，言葉の意味を調べるとともに，苗字の型を4つ，さらに，その多種多様な様式について説明する。そして，誰でもできる血脈の辿り方などについて説明する。また，自らの苗字のルーツ，由来を辿ることで調査方法を明確にし，記した。

11070044 田辺 祐希**「日本語の変化について」**

新聞やテレビ，ラジオ，雑誌などのメディアで「近頃の若者の日本語は乱れている，間違っている。」とよく耳にする。しかし，それは，日本語が乱れたのだろうか。新しい言葉が生まれ消えてゆく中で，日常的に何気なく使っている現在の「流行語」，「若者言葉」，「方言」について調査し，変化，定着，消えてゆく言葉の特徴について研究し，母語話者の考える美しい日本語とはどんなものなのかまとめた。

11070046 千田 雪乃**「ウォルト・ディズニーの経営理念」**

本稿では，ウォルト・ディズニーが，なぜ現在見られるような成功を収めることができたのかを明らかにすることを目的としている。彼の芸術概念，ディズニー映画と政治との関係，またSafety（安全性）・Courtesy（礼儀正しさ）・Show（ショー）・Efficiency（効率）の「SCSE」というディズニーの経営理念などを調べた結果，キャストとゲストの関係性に見られるサービスの概念が大きな要因であることが分かった。

11070048 堤 有布貴**「忘れる漢字」**

パソコンや携帯電話が普及し，その使用頻度が上がるにつれて手書きで文字を書く機会が減少した。いざ手書きで文章を書こうとすると，簡単な漢字が思い出せないという話をよく耳にする。パソコンや携帯電話が変換してくれるからだ。しかし，すべての漢字を忘れてしまうわけではない。そこで，一体どのような漢字が忘れやすいのか，また，パソコンや携帯電話の使用率の高さと漢字を忘れてしまう程度は比例するのかなどを分析した。

11070049 富田曜一朗**「面接試験で聞かれる質問の分類と分析」**

就職活動において，避けて通ることの出来ない面接試験。その面接試験で自分が実際に聞かれた

質問や周りの就職活動をしている友人にインタビューして集めた105の質問項目をリストアップし、それを区分ごとに分類、分析した。その結果、分類ごとの質問の特徴を知ることができた。今後、自分が受ける面接試験の糧としつつ、就職活動が本格化する後輩達がこれを見ることで事前の対策をより練りやすくする事を目的としたものである。

11070050 豊田佳奈美

「漫画におけるオノマトペの役割」

日本語は他の外国語と比べ、オノマトペが発達した言語だと言われている。日常会話だけでなく、文学作品、漫画や歌にと幅広く用いられている。そこで私たちにとって身近な漫画でのオノマトペの使われ方と役割について、「君に届け」(少女漫画)と「SLAMDUNK」(少年漫画)の二つの漫画を使用し、気持ち・感情、動き、発する音、状態、その他に分類して分析し、オノマトペを漫画の特徴と合わせながら比較した。

11070051 中村 未来

「心理言語学からみる子供のような大人達の言語発達と心理」

日々の生活の中で、自分よりも年上、所謂「大人」の人たちと接する機会は誰にでもある。そもそも「大人」とは、私達よりも人生経験が多く、尊敬すべき部分が多いと考える事が当たり前という感覚が誰にでもあるであろう。だが、それに値しないうまくコミュニケーションがとれていない少し困った大人がいるのも事実である。何故彼らはそのようなコミュニケーションをとっているのか。その原因を探ったのが、この論文である。

11070052 永井 勲

「目の恐怖」

本研究は、円錐角膜症という目の病気をテーマに、病気の内容や治療法などについてまとめたものである。円錐角膜症とは、瞳の中央部が薄くなり、角膜が前方へ、円錐状に突出していき、不正乱視が起り、視力が低下していく病気である。

今現在、この病気はあまり知られておらず、病気の初期症状に気づかず知らない間に進行していく難病とも言われており、この病気の存在についてもっと周知する必要があると考えている。

11070054 平林 正行

「角界の言葉・用語と一般社会のつながり」

400年の歴史と伝統のある相撲。あまり観戦する人は多くない。馴染みがなく、相撲と接する時間は以前と比べてほとんどない。それでも、相撲界で使われている言葉が一般社会で用いられることがある。決まり手・動作など見た目で見やすい表現もある。その使われ方、意味、由来などをまとめることで、日本人と角界の関係について見ていく。それとともに、相撲とは、どういうも

のかを知ってもらえればと思う。

11070055 ピリス パラムルラゲ パウットラ プラサンチ

「シンハラ語と日本語の類似と相違—日本語教育の観点から—」

スリランカの日本語教育の改善のためには、日本語教師の質的向上が必要である。その際、日本語教師に求められるものに、日本語の基本的な知識と指導力がある。

そこで、日本語の基本的な知識として、シンハラ語と日本語の類似点について追究した。その結果、文字・表記、音、文構造に類似と相違がみられた。これらを踏まえた日本語指導及び教師育成、さらには日本文化への造詣がスリランカの日本語教育の改善に必要であると考えられる。

11070056 藤崎 崇史

「千葉県食文化と特産物」

千葉県の特産物として代表的なものは、今から少し前の時代ではどのように利用されていたのか、また、千葉県で作られ始めたのはいつ頃だろうか。県立または市立図書館や郷土館へ行って調査し、千葉の特産物が、私達の食卓には並んでいないことがわかった。世代を超えて、食材になっているものはあったが、初めて見た料理が多かった。特産物は扱われてはいたが、利用して料理している地域は少なかった。

11070057 本田 響子

「オノマトペ—日本語と外国語の擬声語・擬態語の比較と教材作成—」

本論文では、英語版の漫画と日本語版の漫画を、特にオノマトペに関して比較、研究を行った。今回は、比較的海外でメジャーである『ONEPIECE』と『BLEACH』を比較対象とした。2つを主に「ドアを開ける音」、「液体がながれる音・落ちる音」、「コンクリートに下駄が当たる音」の3つのカテゴリーで検証を進めた。その結果、英語版と日本語版ではいくつかの違いが発見できた。さらに、それぞれの字体に関する検証を行った。

11070058 本間 美郷

「日本人と韓国人の感謝と謝罪の表現の違いについて」

現在、日本と韓国で感謝と謝罪表現がどのように使われていて、両国で違いがあるのか調査した。韓国（釜山）と日本（千葉）の大学生の男女が友達、年上の人、同年代の知らない人にそれぞれどのような感謝と謝罪の言葉を使うかについてアンケートをおこない、日韓の違いだけでなく男性と女性の表現の違いも調べた。また、感謝や謝罪のときの気持ちの強さによる表現の違いも知るため、感謝と謝罪それぞれ3つずつの質問を行い調査した。

11070059 増田 春菜**「うつ病とはなにか」**

うつ病というのは、誰もがなり得る病気である。しかし、決して治らない病気、なまけ病、などといった誤った認識をもたれている。患者やまわりの人々もうつ病ということを認め、その状態から簡単には抜け出せないということを受け入れることが大切である。うつ病の治療は悲観的にならずに、希望を持つことも大切である。そのためにも、治療法について医師がきちんと説明し、患者が納得して治療を進めることが必要である。

11070060 馬橋 花苗**「現代における若者のお茶に対する意識」**

日本人の一人当たりのお茶の消費量が減ってきていることは先行研究ですでに明らかである。しかしながら、その原因が何にあるかは明らかにはなっていない。そこで本研究ではその原因の一つとして「若者のお茶離れ」に焦点をあてて、若者と社会人にお茶に対する意識についてのアンケート調査を行なった。その結果、「お茶は飲むが茶葉は買わない」「お客にお茶を出さない」若者が多く、そのことが要因となることが示唆された。

11070061 武藤 清伸**「幸福と宗教と対話」**

この論文ではキリスト教、仏教、及び哲学を取り上げ、教義を比較し、どのような形が幸福への近道なのかを調べた。その結果、これらが提唱していることの共通点として、「武器を持って戦うよりも、自身の声による言論戦＝対話が平和で幸福への近道である」ことが分かった。今回このテーマを選んだ背景には、未だに戦争を起そうとする人間がいて、どうしたら戦争の根源を断つことが出来るか考え、結論を導きたかったことがある。

11070062 面来 忍**「江戸語から東京語へ」**

標準語と呼ばれている日本語は、これまで変化を成し遂げてきた。とくに東京語はもともと江戸語からの流れをくむものである。実際に現在でも使用されている江戸語もあり、知らずに使っていることもある。その江戸語そのものは、どんな人が話し、どんな使い方がなされていたのか。また江戸語はどんなきっかけで東京語へと移り変わっていったのか。人や環境が大きく関係しながら変わっていった背景をもとにその変遷を考察した。

11070063 諸星 麻衣**「クレマーの心理と対応」**

現在、クレームが注目されている。その大きな理由として、ここ数年でクレームの件数が急増し

ていることと今まで以上にサービスが重要視されてきていることが考えられる。

日本も個人の主張が強いアメリカ社会のようになりつつあり、ひとつ間違えれば誰もが苦情やクレームを受ける立場になってしまうことも珍しくない。そこで、クレームを受けた場合どのような対応をしたらよいかを知るために、クレマーの心理と対応について調べた。

11070064 山田 崇人

「新潟ネイティブの方言習得とその使用」

最近、日本の方言をあまり聞くことがなくなった。日本の文化である方言を使える人が少なくなってしまったのか。また、日本人の生活の基盤である地域の言葉、つまり「方言」がどのような形で維持されてきたのかについて疑問を持った。

そこで、本研究では、自分の出身である新潟県の方言の発音や使い方について考察し、新潟ネイティブの方言を習得し日本の良い文化の一つとして外国人に教えられるような工夫を考えた。

11070067 横溝 文奈

「困ったときの神頼み」

日本は「八百万の神々の国」と言われ神さまが多数存在している。しかし、信仰している宗教を尋ねると、無宗教だと答える人が多い。「困ったときの神頼み」という言葉があるが、本当に神さまの存在を信じているのかという点に疑問を感じた。現代人の神さまについての意識をアンケート調査し、その結果、神さまを信じていないと言いつつ、その存在を意識した習慣や行いを日常的にしているという日本人の矛盾点が明らかとなった。

11070068 吉崎 朋美

「知っているようで知らない日本語（接頭辞）」

最近『ダーリンは外国人』や『日本人の知らない日本語』などの本を通して、日本語に注目が集まっている。その影響で日本人にとっての日本語というものが考えられるようになった。『ダーリンは外国人』の中で、「ぶん殴る」の「ぶん」についての場面で、音から由来しているのではないかと推測されているが、実際は何なのかと気になった。意味を知らずに使っている身近な言葉の中から、接頭辞「ぶん」について調べた。

11070069 吉田 雅枝

「洋楽アーティストREDY GAGAのメッセージ性について」

洋楽アーティストのREDY GAGAを洋楽サイトで初めて曲を聴いてから、REDY GAGA本人と曲が好きになったことをきっかけとして、本研究では、REDY GAGAの曲の歌詞、ファッション、そしてREDY GAGAの生い立ちについて調査した。調査の結果、REDY GAGAの曲は、他のアーティストと違い、奇抜なファッションと同様、不思議で独特な世界観を持っていることが分かっ

た。また、曲の歌詞から REDY GAGA の考え方や前向きな姿勢についても窺えることがわかった。

11070070 米満 牧人

「青年期における人間関係、自己評価に対する検討」

本論文は、人間が抱えることの多い不安を取り除くことを目的とする。人間はなぜ、不安になり悩むのか。そのメカニズムを解明、分析し、対策を採ることにより、読者の今後の人生の一助としたい。不安の原因について、自己評価の三つの柱、自分のスタイル（自己評価）を見極める、自己評価の守り方、自己評価の安定等の「自己評価」というキーワードを使って資料をもとに論じていく。

11070071 劉 宇

「人を信頼する基準—日本人と中国人への比較調査—」

人が他人を信頼するかどうかは、どのような基準で判断しているのかということに疑問を持ち、本研究では、日本人と中国人に対して、どのような時にどのような判断をして人を信頼するかについての調査をアンケートにより行った。その結果から、「資格」と「場」の対立的概念に基づき、日中の社会がタテ社会・ヨコ社会のどちらの傾向が強いのかを探り、日本と中国における信頼する時の判断基準について比較・考察した。

11070072 梁 超

「中国における日本語教育と日本経済」

日本企業は、現在の経済状況から、工場等の海外進出を積極的に行っている。特に、中国は日本の重要な経済パートナーとして、日本企業の進出先の一つとなった。

日本企業は中国での経済活動の拡大のため、日本語ができる有用な人材を求めている。日本と中国の経済発展に必要とされる日本語が堪能で高い専門性をもつ人材の育成には、日本語教育の内容と方法を改善しなければならない。その改善課題と一案を示した。

11070074 連達日向子

「日中のあいさつの言葉・しぐさから見える文化」

本研究では、日中でのあいさつをする際の言葉としぐさがどのように行われているのか、文化があいさつにどう関係してくるのかを調査した。

日本人と中国人にアンケート調査を行った結果、中国人よりも日本人の方があいさつの頻度が高く、使用している言葉も多いことが分かった。また、日本人は、相手によってあいさつの言葉を変える傾向があり、中国人は時間帯によってあいさつの言葉を変えていることもわかった。

11070902 黄 志飛**「中国のインターネットで流行っている流行語」**

中国語の流行語，特にネット上の言葉にとっても興味を持ち，グーグルで，他人のブログや新聞などを調査することで，ネット上の流行語について調査した。実際に，友達以外の相手にはわからない言葉をよく使っているという現状があり，また，流行語についての本を読んでもわからない言葉がたくさん存在している。さらに，調査の結果，今の若者達が同輩以外に理解できないことを楽しんでいるということもわかった。

11070903 徐 蓮花**「留学生に使って欲しい日本語の敬語」**

今の留学生はなぜ美しい敬語を使おうとしないのだろうか。難しいから，役に立たないと思うから，学んだことがないからなどという理由が予想されるが，この点に疑問を持ち留学生にアンケート調査を実施した。私が使ってみた経験から，敬語は確かに社会生活において，よりよい「人間関係」を作り，維持するために必要であることを強く感じた。敬語というのはどういうもので，どのように使うのかについて考えた。

11070904 葉 恵洪**「通訳者の基本姿勢と自分の経験」**

二ヶ国語ができる者は誰でも通訳者になれるとは限らない。両国の文化背景，生活習慣等を理解した上で，母国語と外国語を同様に練習する必要がある。通訳者は発言者の言葉を聞き，正確な内容を把握，理解してから即反応する。その一瞬，それを聞き手の言語に言い換えて意思疎通ができるようにするのである。本稿では，私自身が通訳現場で経験したこと及び，通訳者として身に付けなければならない基本知識について述べる。

11070905 劉 芳**「英語漬けの日本語から見た日本文化の影響」**

現代の日本語は英語漬けとみることができるよう外來語の影響を受けているが，これは全世界で起きていて，逆に日本語も世界に進出している。その背景には日本文化の影響もある。この研究では，英語圏に外來語として入った日本語を扱い，どのような変容をしているか，どのような興味ある問題が見られるかを中心に，その英語漬けの日本語と英語圏への日本文化の影響について考察し，世界と日本がどこで接触，交流しているのかについてみていく。

11070053 パーラムツラゲー パウイットラー サロージニー ピーリス**「スリランカの日本語教育の諸問題について」**

本研究では，スリランカの高校10校の日本語教師10名，高校20校の日本語学習者20名へのアン

ケート調査、日本語教師1名へのインタビュー等の調査結果から、スリランカの日本語教育の現場が抱える問題を整理し、その解決方法を考える。

解決の具体策として、現在のスリランカ人日本語教師の指導力の向上、教師の実務経験の強化、教師育成の強化、機関の役割、シラバスの見直し、教育環境の整備などを示した。

11070906 林 梅花

「中国語の漢語から見る日本語の漢語—初級日中漢語の対照と和製漢語—」

初級『みんなの日本語』に出ている漢語を単純に形の違いから分類し、日中初級の漢語を対照して、両国の漢字文化の共通点と相違点をもう一度見つめ直す。同じ漢字を使っても、日本語と中国語では意味や使い方が異なる。中国人は日本語の漢字を書き間違えたり、意味を理解し間違えたりすることが意外に多い。漢語と思われているものの中には、日本製のものが少なからずあることも事実である。

11060068 平尾 壽識

「日本・西洋の古典芸能」

本研究は自分自らが芸能を演じる立場に身を置き、現代と過去の芸能の違いを研究したものである。

現代の芸能は過去の古典芸能と違い、映像などによってその姿形を変えてしまい、過去の日本の古典芸能の形はなくなっているが、何故消えてしまったのか、西洋の何を輸入したことによって消えたのかについて、実体験、書籍、現代の芸能の立場に身を置く者に話を聞くことによって、現代の芸能に対する西欧の影響を調べた。

11060093 泉水 由衣

「コミックエッセイの現状とこれから」

「コミックエッセイ」とは何かと聞いて分かる人が少数であることは、周りの反応を見て容易に分かる。しかし、実際に本が好きな人たちを対象とした調査をしたわけではない。そこで、本研究では、本（漫画・小説等）が好きな人が集まるmixiのコミュニティでアンケートを取り、コミックエッセイの認知度、改善点を分析した。その結果、約7割は知っていたが実際に読むまでには至っていないことが示唆された。

11060094 田崎あずさ

「栃木方言を残すための方策—栃木県民の方言意識—」

日本全体で方言が消え去ろうとしているがそれでいいのだろうか。本研究では、方言話者の意識から方言を残すための方策を探ることを目的に、栃木県で年代ごとに質問紙による意識調査を行った。方言使用は半数以下で、40歳以下では方言使用を恥ずかしいと考えているが、40歳以下でも

90%以上の方が方言を残したいと考えていた。そこで調査を踏まえ、栃木方言を残すための方策を他地域の取り組みなどを参考に提言した。

11060095 彦田かおり

「ミュージカルで歌う必要性とは—ミュージカル『ウィキッド』による検証を中心に—」

「ミュージカル」は、芝居だけではなく、歌・ダンスを加えることによって、より観客にわかりやすく、感情や場面を伝えることができるものであると考える。しかし、「なぜ歌うのかがわからない」という理由から、ミュージカルが嫌いだという人もいる。そこで、「ウィキッド」の曲を検証し、ミュージカルにおいて歌とはどのような役割を果たしているのか、またその必要性について考え、ミュージカルの特徴を深く明確にしていく。